

1. 科目名 (単位数)	管理会計特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5360
2. 授業担当教員	【池袋】曹 勁 【名古屋】陳 森			
4. 授業形態	テキストの輪読を中心としたディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	財務会計特論を受講していることが望ましい		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>会計を学ぶことは、事業経営に成功するための道しるべを作る作業になる。会計を身につけることは事業を成功に導くために不可欠なことであるが、会計を収めることは会計のルールを覚えることではなく、会計情報を読みこなし、経営改善に役立てられるようにすることであることを忘れてはならない。そのための学問が財務会計であるといえる。</p> <p>ところが、この講座が対象とする管理会計は、公表される会計情報を読みこなすことが求められるのではなく、そもそも企業内部において、有用に活用されるべき原価情報を提供することにその目的がある。したがって、管理会計を学ぶことは、経営改善の基礎データとなる原価情報、つまり、販売すべき製品がいくらで作られているのか、を知ることであり、メーカーにとっては死活問題となる会計情報である。さらに、メーカーだけが必要な情報ではなく、その考え方は小売業や福祉事業においても、その効率的な経営手法を考えるうえで非常に大切な示唆が含まれている。</p> <p>そこで、本講座では、学部レベルの会計学の一定の知識があることを前提に、管理会計情報の役立て方のテキストをベースとしたディスカッションによって学び取ってもらう。財務会計については触れないので、財務会計を勉強したことがない方は、少なくとも授業開始前までに学部レベルの教科書を理解しておくことが必須である。</p>			
8. 学習目標	<p>1. メーカーにおける製品原価の意味を理解し、経営改善に役立てられるようになる。</p> <p>2. 実際原価計算だけではなく、標準原価計算や直接原価計算の考え方を理解できるようになる。</p> <p>メーカー以外の業界においても活用できる管理会計的な思考法を身に付ける。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>アサイメントを課すことはないが、予習・復習を前提とした講義であることに留意すること。</p> <p>学期末締切りの課題レポートを課す。レポートは課題に対する的確な意見を求めるため、字数制限を設ける。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 林總・山本宣明『崖っぶち女子大生あおい、チョコレート会社で会計を学ぶ。』清文社 2013 年</p> <p>【参考書】 会計学初学者については、財務会計特論シラバスに示した財務会計の入門的なテキストを理解しておくことが必須である。 管理会計初学者については 西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』中央経済社 2009 年 浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子『管理会計・入門<新版>』有斐閣 2005 年 林總『新版 わかる！管理会計』ダイヤモンド社、2007 年 などの大学での授業で使われる一般的なテキストを一読しておくことをお勧めします。 また、林總先生のシリーズでは 『50 円のコスト削減と 100 円の値上げでは、どちらが儲かるか?』ダイヤモンド社、2012 年 『ドラッカーと会計の話をしよう』中経出版、2010 年 などが管理会計的な考え方が前面に出てきているもので、本講義と合わせて読まれることをお勧めする。 その他、講義中に適宜指示する。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 管理会計情報の意味を理解できるようになっているか</p> <p>2. 管理会計情報を経営に生かせるようになっているか</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 講義中の発言 40%</p> <p>2. 課題レポート 60%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>将来、独立して、自分の店舗を構える場合には、面倒な総務・経理の事務仕事も自分で行うことが必要になります。そのときに困らないよう、独立前から準備しておくべきでしょう。この講座では、受講生とのディスカッションを交えながら、進めていきます。ペースが速く、本学の特徴である双方向対話型授業を行うためにも、予習を前提とします。学んだことを的確に知識として定着させるためには、間を空けずに復習することが肝要です。予習・復習を怠れば、ついていけなくなる可能性が高いため、予習・復習ができないのであれば、選択しないで下さい。</p>			
13. オフィシアワー	後日指示する			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	ガイダンス			
	<p>【学習の目標】 会計が持つ役割とその目的を理解する。</p> <p>【学習の内容】 会計が持つ情報発信機能と内部管理機能の役割と目的を理解する。</p> <p>【キーワード】 財務会計、管理会計、監査論、税務会計、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、公認会計士</p> <p>【学習の課題】 財務会計と管理会計の違い、公認会計士の役割を理解する。</p>			
2. テーマ	1 日目 会社の仕組み—組織			
	<p>【学習の目標】 経営組織における経理部の役割を理解する。</p> <p>【学習の内容】 ビジョンの策定、経営計画の策定・実行を経営者の役割として理解すると同時に、経営参謀としての経理部の役割</p>			

	を理解する。 【キーワード】 機能別組織、水平分化、垂直分化、コストセンター、責任センター、企業価値、コーポレートガバナンス、経営目標、経営計画、資源配分、統制 【学習の課題】 経営の見える化のための会計の役割と組織の意味を理解する。
3. テーマ	2日目 製品を考える—製品開発部
	【学習の目標】 製品の販売価格の策定方法を理解する。 【学習の内容】 製品の企画段階から目標原価を考慮する原価企画の意味を理解する。 【キーワード】 企画開発、販売価格、製品原価、原価企画、標準原価、kaizen 【学習の課題】 経営計画と原価企画の関係性を理解する。
4-5. テーマ	3日目 材料を管理する—製造部（工場）・材料倉庫
	【学習の目標】 原価計算の目的を理解する。 【学習の内容】 原価計算の目的を理解する。 【キーワード】 実地棚卸、継続記録簿、払出単価、個別法、先入先出法、平均原価法、売価還元法、最終取得原価法、製造指図書、材料、仕掛品、製品、費目別原価、部門別原価、製品別原価、原価計算基準、期間利益、個別利益 【学習の課題】 原価計算の目的を理解する。
6-7. テーマ	4日目 製品をつくる①—製造部・費目別計算
	【学習の目標】 原価の構造を理解する。 【学習の内容】 原価データの意味を理解する。 【キーワード】 形態別分類、機能別分類、材料費、労務費、経費、直接費、間接費、変動費、固定費、時間管理、作業日報、付加価値時間、非付加価値時間、管理可能費、管理不能費 【学習の課題】 時間管理の重要性を理解する。
8. テーマ	5日目 製品をつくる②—製造部・部門別計算と製品別計算
	【学習の目標】 個別原価計算と総合原価計算の構造を理解する。 【学習の内容】 オーダーメイドに適した個別原価計算と大量生産に適した総合原価計算の構造とその意味を理解する。 【キーワード】 部門別計算、製品別計算、部門共通費、補助部門費、部品構成表、作業手順書、単価、賃率、製造間接費、直接作業時間、配賦率、個別原価計算、総合原価計算 【学習の課題】 個別原価計算と総合原価計算の異同を理解する。
9-10. テーマ	6日目 品質をあげる—品質管理部
	【学習の目標】 伝統的原価計算の限界を理解する。 【学習の内容】 伝統的原価計算では管理しきれない廃棄物コストを見直す活動基準原価計算（ABC）を理解する。 【キーワード】 品質管理、内部失敗コスト、外部失敗コスト、評価コスト、予防コスト、活動基準原価計算（ABC）、原価管理（ABM）、時間主導型活動基準原価計算（TOABC） 【学習の課題】 伝統的原価計算の限界を乗り越えるために開発された活動基準原価計算（ABC）の意味を理解する。
11. テーマ	7日目 製品を売る—営業部（小売りと卸）
	【学習の目標】 直接原価計算を理解する。 【学習の内容】 直接原価計算が経営指標として示す貢献利益の意味を理解する。 【キーワード】 貢献利益、限界利益、振替価格、回収責任 【学習の課題】 貢献利益を用いて意思決定の材料とすることができるようになる。
12. テーマ	8日目 会社を経営する—経営計画と予算と月次決算
	【学習の目標】 経営計画と予算管理の意味を理解する。 【学習の内容】 管理会計情報を生かして PDCA サイクルを回せるようになる。 【キーワード】 中期経営計画、総資産利益率（ROA）、予算、責任予算制度、投下資本利益率（ROI）、デュボン・チャート・システム 【学習の課題】 過去情報ではなく未来志向の会計を考えられるようになる。
13-14. テーマ	9日目—10日目 テキストの総括
	【学習の目標】 管理会計を経営に生かせるようになる。 【学習の内容】 データを解析して経営改善計画を立てる。 【キーワード】 ラインカンパニー制度、稼働率、段取替に伴う仕損、プロジェクト管理 【学習の課題】 管理会計を経営に生かせるようになる。
15. テーマ	総括
	【学習の目標】 前回までに学んだことを生かして、管理会計の知識を生かした会社の経営を考えられるようになる。 【学習の内容】 グループディスカッション 【学習の課題】 受講生各人が経営者の立場から、どうすれば継続的に改善し続けることができる経営を行うことができるのかを考え、グループ討議を通じて自己の意見を集約する。